

**新潟医療センターニュース**

第18号

発行 JA新潟厚生連  
新潟医療センター  
発行責任者 吉澤 弘 久

# 新潟から世界へ

—ミャンマー人医師 本院で研修—

私は二〇〇〇年から新潟大学への留学生をパートナーとしてミャンマーの医療支援を続けています。現在新潟大学は感染症プロジェクトや医療人育成プロジェクトでミャンマーの医療に深く関わっています。このような新潟との繋がりがあって、ヤンゴン第二医科大学の病理学講師メイ先生 (Dr. May Ei Aung) が二〇一七年五月十三日に来日し、本院病理センターで二ヶ月

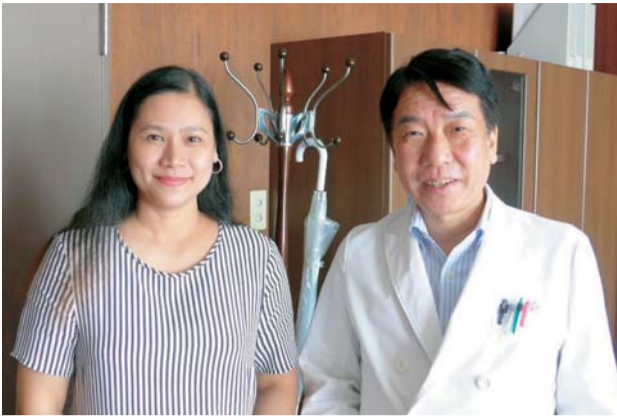


写真1 吉澤弘久院長に挨拶するメイ先生 (左)。

間研修を行いました (写真1)。本院で研修する外国人医師は初めてです。

研修のテーマは「卵巣癌のKRAS遺伝子変異の検出」で、ミャンマーから五十二例の病理検体を持参しました。当院はPCR (遺伝子増幅装置) など必要な機材を整え準備しました。最初に免疫染色を数種類行いましたが、染色にかなりむらがあり、遺伝子 (DNA) を抽出できるかどうか心配しました。幸い、良好な結果を得て、九割の症例からDNAが抽出されました。

メイ先生は連日PCRと電気泳動を行いました (写真2)。当初ピペット操作に苦労していましたが、次第に慣れて解析が進みました。PCRだけで遺伝子配列を調べる方法が成功しました。これならミャンマーに戻って遺伝子配列を調べる機器 (シーケンサー) が使えなくても研究が続けられるでしょう。



写真2 研究に没頭するメイ先生。

彼女は明るく気さくな人柄で、スタッフとすぐ仲良くなりました (写真3)。六月の週末には病理技師の上村さん、長谷川さんと鎌倉・浅草観光を楽しみました。メイ先生は高価な鰻重よりカツ丼やラーメン、天ぷらが大好きでした。十年前に私の研究室に来た彼女の先輩はメールで連絡をとっていました。メイ先生は新潟での研究や

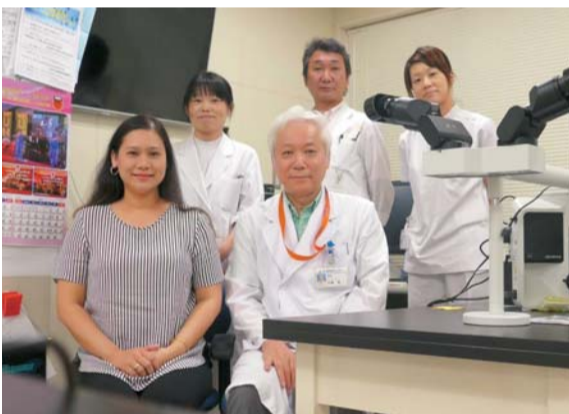


写真3 病理センターのスタッフとともに。

生活の様子をすぐにFacebookで家族や友人に伝えていました。今は世界のどこにいてもすぐに繋がる時代です。

七月七日には健診センターで小林勲センター長に本院の健診システムを紹介していただきました (写真4)。メイ先生は日本の健診システムの素晴らしさを実感し、印象深そうでした。

ミャンマーでも富裕層向けの健診システムはあるそうですが、検査内容は日本が格段によいとのことでした。最後に小林先生は「次回新潟に来たら、ここで健診を受けたらよいですよ」と。

研修を終え、ヤンゴンへ戻ったメイ先生から病院長への礼状 (別紙) と病理スタッフそれぞれ

れにあてた心のこもった手書きの手紙が届きました。新潟は彼女の第二の故郷になったようです。

病理部長 内藤 眞



写真4 小林先生 (右) から健診システムについて説明を受けるメイ先生。

## メイ先生からのお礼の手紙

私はミャンマーのヤンゴン第二医科大学病理講師のメイ・エイ・アウンです。

私は新潟医療センター 病理センターの内藤病理部長の下で、2か月間分子病理の訓練を受ける機会をいただきました。私の博士論文のための分子病理学の技術を学ぶ絶好の機会でした。

具体的には、卵巣腫瘍におけるKras遺伝子の突然変異を、通常のPCR (遺伝子増幅装置) とより精細なリアルタイムPCRの両方を用いて検出しました。

新潟医療センターのみなさんには、私の研究に必要な機器を親切に提供していただき、感謝しています。また、吉澤病院長、近藤事務長、そしてスタッフ全員のおもてなしに心から感謝致します。長谷川主任技師、病理センターの方々の配慮、指導、サポートに深く感謝します。みなさんのサポートと協力がなければ、私の研究は成果をあげることはできませんでした。

最後に、新潟滞在中、新潟医療センターの皆様のご親切に心から感謝致します。いつか再会できることと、良い関係が永遠に続くことを期待して、御礼の言葉と致します。

(裏面もご覧ください)

## 医療安全研修会

今年度、第1回目の医療安全研修会を行いました。  
講師に、日本初!漫才式セミナー Wマコトさんをお呼びしました。



### テーマ

## 最強医療コミュニケーション なんでやねん力

漫才師の軽快なトークは、コミュニケーションに重要な「聞き手」と「話し手」のキーワードとなる、相づち術であることを学びました。

また、質の高い仕事をするには、「なんで失敗した」「なんで成功した」と常に「なんでやねん!」と目の前の物事を紐解くことで、自分で考える癖がつき仕事が楽しくなるという事でした。

今年度の研修企画は、研修らしくない笑いがいっぱいの研修会となり、参加した職員からは「笑顔を大切に」「楽しかった」など多数の意見や感想をいただきました。

## 中学生職場体験

新潟医療センターでは毎年、中学校の職場体験を受け入れております。

7月14日、19日、地域の中学校2校（新潟第一中学校 小新中学校）9名の生徒さんを迎えました。

未来を夢見る子供たち、将来の自分を模索し生き生きと目を輝かせて職場体験をおこないました。体験した病棟は、リハビリ回復期病棟、療養病棟、小児科内科混合病棟に行きました。

それぞれの病棟で、車椅子の体験、食事介助の見学、患者さんの身边のお世話、リハビリ見学、栄養指導の見学、手術室の見学など一日盛りたくさんの職場体験でした。

自分の心電図の波形を見たり、記録用紙をもらい一喜一憂していました。

病院で働く職員も、中学生の新鮮な笑顔を見て元気をいただきました。

進路の選択にあたり動機づけになれば幸いです。

副看護部長 佐野 三恵子



### 編集後記

暑い夏のある日、子供と一緒に玄関先で水遊びをしました。

ビニールプールに浮輪や水鉄砲、最後にはホースを持ち出して水の掛け合い。

炎天下の中、夢中になって遊ぶ子供に、少し熱中症の心配になりながらも楽しい夏の思い出になりました。

今年はプールデビューをしました。来年は一緒に海に行くのを楽しみにしています。

地域医療連携室 夏目 一臣



## こばり園 盆踊り大会

八月十日、当院併設の介護老人保健施設こばり園では、毎年恒例の盆踊り大会が開催されました。当日はボランティア「かつみ会」の皆様（総勢十二名）がご参加くださり、歌や踊りや太鼓や三味線で大いに盛り上げていただきました。

た。おかげさまで今年も入所者の皆様は大変楽しんでおられた様子で、参加したお一人おひとりから、とても生き生きとした表情を伺うことができました。

なお、こばり園では毎月第三木曜日の午後二時から誕生会を行う他、季節ごとの行事を毎年開催しております。その際には、フラダンスやハーモニカ演奏、昭和歌謡や民謡・舞踊など、様々なボランティアグループの皆様の慰問をお受けしております。ボランティア慰問に関心のある方は、ご遠慮なくこばり園までお問い合わせください。大歓迎いたします。

こばり園支援相談員

坪田 泰志

